



インボッシブル社のロゴの入った新しいフィルムのパッケージ。イメージ。あくまでイメージで、実際の製品はこれとは異なるという。

ポラロイド社は2008年にフィルムを生産を終了し、アナログカメラ事業から撤退。同年12月には米連邦破産法第11条の適用を申請した。

ピーリアパートと呼ばれる、ネガ部を剥がすタイプのインスタント写真フィルムは、現在も富士フィルムが生産を続けており、これらをポラロイド社製の代用として使う道はまだ残されている。しかし、必要のない自己現像型のフィルムは、フジとポラロイドではカセットの形状も含めて互換性がない。ポラロイド用のフィルムは残り在庫のみの販売となり、現在では日本でも人手困難な状況になりつつある。



今でもファンが多い名機SX-70(■)とシンプルな構造のOne600 Pro。SX-70でも600フィルムは使えるが、フィルターをつけるなどの工夫が必要

閉鎖されたポラロイドの工場を買い取り再生産を

ところが、新しくポラロイドフィルムを作り直そうという動きが

NEWS PICK UP

モノクロ600フィルムが年内にも復活!? ポラロイド復活を目指す「インボッシブル・プロジェクト」

一部ユーザーから要望の高かったポラロイドの自己現像型フィルムを再生産する計画が動き出した。その名も「インボッシブル・プロジェクト」。ユーザーがカメラを捨ててしまう前に、フィルムの再生産に乗り出せるか? 文:まつうらやすし/編集部 写真:杉浦章浩(スタジオB-1)、村上ヒロキ

ヨーロッパではじまった。その名も「インボッシブル・プロジェクト」である。中心人物は、ロモ・グラフィックにいたウイーンのプロリアン・キャプス。ロモをやめた彼は、ポラロイドのファンサイトと販売サイトを運営しながら、ポラロイドフィルムを復活する道を模索していた。彼は、ポラロイドの工場の閉鎖の後、元ポラロイドのプロダクト・マネジャーであるアンドレ・ボスマンに会う。当時ボスマンはポラロイド社からキャプスの考えを変えさせるようにと指示されていたのだが、結局二人で「ポラロイドフィルムを生かし続ける」ことを決意したのだ。



左/インボッシブル社のアンドレ・ボスマンCEO。生産管理担当。1980年にポラロイド社に入社。プロダクトマネージャーとして活躍。右/インボッシブル社のフロリアン・キャプスCMO。マーケティング担当。アナログカメラに対する純粋な愛情から世界的なビジネスをはじめ

インボッシブル社の使命は「インスタントフィルムを一から作り直すこと」。一部の材料をイェルフォードが供給することが決まっております。今年10月にもモノクロの600フィルムの試作品が完成する見込みで、2010年には100万個のフィルムを生産したい」という。その後はカラーの600フィルムも開発する予定だという。4年前からキャプスと親交がある、カメラ販売店「エーパワー」のドクタ・アンドこと安藤芳浩社長はこの話を聞いたときには非常に驚いたという。

ポラロイド600フィルムのカートリッジを大まかに分解したところ。中央上にあるのが、内蔵されている使い捨てバッテリー。トータルでは20数点あまりの部品から成り立っているフィルムパックだが、その部材の多くはすでに調達不可能という。工場さえあれば用意に生産を再開できるという簡単な話ではない



「びっくりしました。しかしオランダの工場にはスペクトラや600フィルムなどを作る12〜3ラインがあり、生産能力は十分。ただ、ポラロイドが作っていた(フィルムに内蔵の)使い捨ての電池をどう入手するのか? 他社のものを使うとして、どのように使うかが問題だろう」と語る。

解決を期待したいポラロイドの電池問題

SX-70や600タイプのカメラを使用していると10枚の撮影で1個のバッテリーを使い切ることはない。環境への配慮が求められる現在の状況を考えると、充電式電池をフィルムカセットにセットする構造など、新しい進化を期待してしまう。「インスタントフィルム



オランダのエンシェーデにある元ポラロイドの工場内部。工場の機械類は買い取ったという



埼玉県所沢市でトイカメラ&ピンホールカメラ専門企業「エーパワー」を経営するドクタ・アンドこと安藤社長。フィルムがなくなったら廃業すると宣言するほどアナログ好きである

いる。6月に1000本だった注文が7月に1万本来た。600フィルムは病院の眼底カメラなどで、根強い需要がある」そつだ。

世界中の600フィルムの在庫が尽きる前に、果たして新しい600フィルムが間に合うのか。大きな期待とともに静かに注目を浴びたい。

Interview

インボッシブル社・広報担当インタビュー

インボッシブル社のプレス担当マレーネ・ケルンライターさんとの一問一答である。

AC なぜポラロイドフィルムそのものを再生産せず、新しいフィルムを一から作り直すのですか?
マレーネ(以下M) 単純に、不可能だからです。自己現像型のフィルムは40年間まったく同じ製造方法で作られてきましたが、必要な材料のいくつかがすでに入手不能なのです。
AC ピールアパートタイプやスペクトラの再生産は考えていますか?
M まずは自己現像型からはじめて、様子を見ます。実はすでに最近8×10のフィルムを作る工場を入手しました。おそらく将来的にはほかの製品も手掛けるでしょう。
AC ポラロイドの名前を使用でき

るのでしょうか?
M 現在交渉中で、なんともいえません。しかしポラロイド用フィルムを作る許可はすでに得ています。
AC イェルフォードはどのような形で協力するのですか?
M モノクロネガなど、必要な材料を提供してもらっています。
AC モノクロでイェルフォードがネガを提供するならば、カラーに関してはどうですか?
M 現在、ある企業と交渉中ですが、詳細は明かせません。
AC 電池は入手できたのでしょうか?
M 電池問題は解決していますが、

新製品を公表するまでは方法についてお答えできません。
AC 価格を教えてください
M 現在のポラロイドの600フィルムとほぼ同じ価格です。10枚パックが15〜20ユーロになるでしょう。
AC 運営していく資金はあるのでしょうか?
M 09年は多分赤字でしょうが10年にフィルムを生産・販売がスタートすれば収益が上がると信じています。個人投資家からも株式投資を受けています。現在行われている第三次でたぶん最後の投資募集もほぼ完全に予約されたという状況です。
AC 日本ではいつ新しいフィルム

ま入手できず夏を予定してしまいがちです。ポラプラミニアサイトの販売するほか、代理店店頭についても選択中です。